

刊行にあたって

多摩市では、オリンピック・パラリンピックが私たちのまちで開催されるというこの貴重な機会に、多くの市民の皆さまにとって、心に刻むレガシーを残すことができるよう、また、大会を契機とした健康づくり、まちづくりが将来にわたる多摩市の発展の原動力となるよう、取組を進めてまいりました。

前年には、自転車競技ロードレースのテストイベント「READY STEADY TOKYO-自転車競技(ロード)」が実施され、世界のトップレーサーが多摩市内を駆け抜け、多摩市でも開催への期待が高まってきたところ、2020年3月、東京2020大会は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響により、史上初めて延期されました。また、延期してもなお日本での新型コロナウイルスの感染拡大は収まらず、多くの競技が無観客での開催となりました。多摩市内でも、オリンピック聖火リレーの出発式及び公道走行は中止、オリンピック自転車競技ロードレースの沿道での観戦が自粛となり、コミュニティライブサイトも中止を余儀なくされました。全国で唯一のアイスランド共和国のホストタウンとして受け入れた事前キャンプでも市民と選手団との直接的な交流はほとんど叶わず、多くの市民の皆さまが東京で開催されたこのオリンピック・パラリンピックを直接肌で感じる事ができなかったことは大変残念でなりません。

しかしながら、多摩市では、東京2020大会へ向けた気運醸成を大学や東京都、市内企業などの多様な主体と連携・協力して進めてきました。気運醸成事業の幕開けとして実施したラジオ体操・みんなの体操会の流れを汲んだ「楽しく! 美しい! ラジオ体操教室」は今や地域に根差す活動となり、ポッチャの取組はさらなる広がりを見せています。また、予定していたさまざまな事業が中止となった中、多くの制約の下、形を変えながらも、オリンピック自転車競技ロードレースの開催、アイスランド共和国のオリンピック並びにパラリンピック選手団の事前キャンプの受入、パラリンピック聖火「多摩市の火」採火式の開催などの歴史が市内で刻まれました。

本書は、その記録を報告書としてまとめたものです。

これまでの取組にご協力をいただいた多くの皆さまに改めて感謝申し上げます。

この大会を通して得たさまざまなつながりや経験、大会を契機とした健康づくりや共生社会の推進などの貴重な財産を、レガシーとして後世に引き継ぎ、今後のまちづくりに活かしてまいります。

2022(令和4)年3月

多摩市長 阿部 裕行



目次

第1章	東京2020大会へ向けて	1
第2章	気運醸成の取組	5
第3章	自転車競技ロードレース	23
第4章	聖火リレー	37
第5章	事前キャンプ・ホストタウン交流	47
第6章	多摩市ゆかりの選手	63
第7章	東京2020大会後のレガシー	69